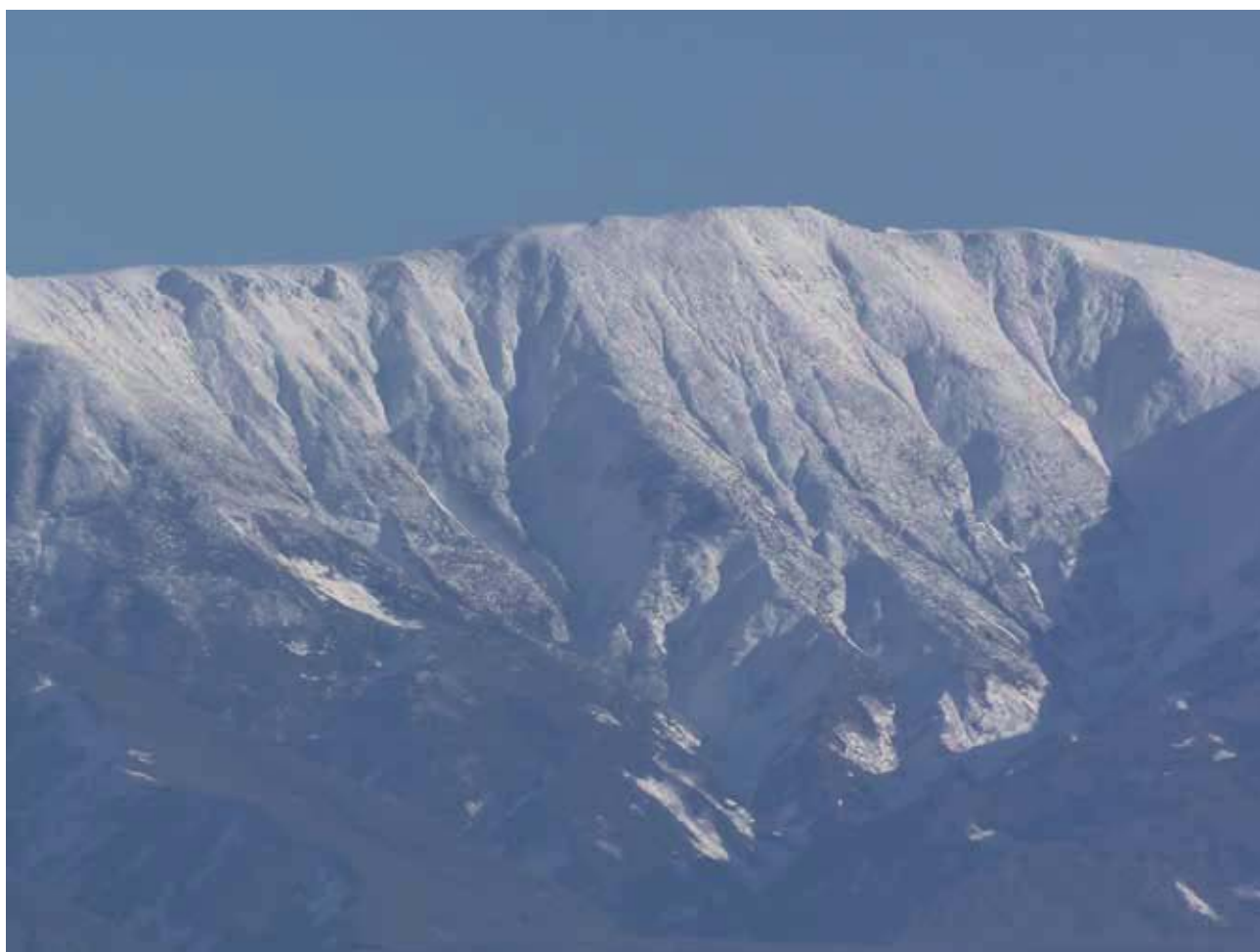


めでいかすとり *Médicastre*



「 初冬の月山山頂 」

鶴岡地区医師会

29年 **4**月号

日時：平成29年2月11日(土)～12日(日)
場所：日本医師会館

平成28年度 日本医師会医療情報システム協議会報告

鶴岡地区医師会理事 三原 一郎

2月11・12日、日本医師会館で開催された、日本医師会医療情報システム協議会に土田会長他4名で参加してきました。冒頭の日医IT戦略セッションでは、日本医師会のIT戦略として、医師資格証の普及、お薬手帳の電子化、かかりつけ医連携手帳、個人情報保護に係る改正個人情報保護法の整備・医療等IDの創設、ビックデータの構築と利活用、日本医師会ORCA管理機構株式会社の創設、医療等分野専用ネットワークなどが挙げられ、地道に活動が続けられているようですが、世の中急速なIT化に比べると、遅々として進まない感は否めません。

さて、今回の協議会の目玉は事例報告セッションでした。全国から公募した14の事例が報告されましたが、内容的には玉石混淆であり、参考になる事例は少なかったように感じました。当地区からは「Note4U」の報告をしてきましたので、その抜粋を書き留めておきます。

「患者・家族参加型システム

Note4Uの運用と課題」

Net4Uの歴史と運用実績

まずは、簡単にNet4Uの歴史について述べます。Net4Uは2000年の経済産業省の事業において開発された地域電子カルテですが、2012年にはストローハット社の開発により、「医療と介護を繋ぐヘルスケア・ソーシャル・ネットワークNet4U」としておもに在宅医療における医療・介護連携を目指したシステムとして全面改

訂されました。その後、ID-Linkへの対応、今日のテーマである患者・家族参加型システム「Note4U」、また地域連携パスとの連携機能などを順次追加し、現在に至っています。現在、鶴岡以外では富山県、宮崎県、新潟県、長野県など全国の6地域、800程度の施設に導入されています。さらに、Net4UはID-Linkのような広域ネットワーク、地域連携パス、ORCA、訪問看護業務支援システム、Note4Uなどと柔軟にシステム連携を行っています。鶴岡地区の参加施設数は107であり、近年、介護系施設が増えています。一方で、診療所の参加が増えないという課題も抱えています。2017年1月末現在での登録患者数は5万人を超え、毎月400人前後の登録があり、順調に運用されています。

Note4Uとは（図1参照）

さて、本題である、患者・家族参加型システムNote4Uについて解説します。在宅医療においては、患者さんと接する時間が多い家族への支援はとても重要となります。そこで、患

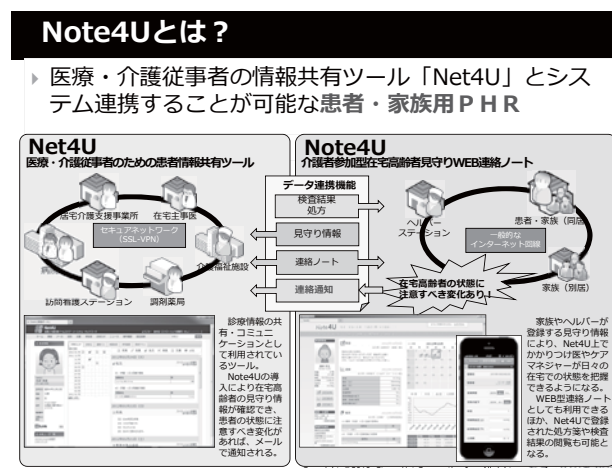


図1

者・家族がサービス提供側である医療や介護と繋がる仕組みとしてNote4Uが開発されました。Net4Uは医療・介護従事者のための患者情報共有ツールという位置づけにあり、セキュアなネットワーク上で機能しています。一方、Note4Uは一般的なインターネット回線を利用し、Net4Uとは別ネットワークで機能します。このNet4UとNote4Uをデータ連携させることで、患者・家族側はNet4Uの検査結果、処方内容を閲覧でき、見守り情報機能を使うことで患者さんの状況を医療者側へ伝えることができます。また、連絡ノート機能を利用することで相互のコミュニケーションが可能となります。なお、Note4Uは操作がより簡便なスマートフォンやタブレットの利用をおもに想定しており、写真の添付や音声入力にも対応しています。

Note4Uの活用事例（図2 参照）

Note4Uはおもに在宅医療における家族支援が目的であり、対象が高齢者であることが多く、なかなか実用には至っていませんでした。しかし、最近は活用事例も蓄積されつつあり、ここでは先日経験した事例を紹介します。患者さんは、Stage4の前立腺がんで、多発性の骨転移があり、認知症にも罹患しています。3年前に急性期病院を退院し、以後、在宅療養中ですが、退院直後からNet4Uが多職種連携に導入されていました。徐々に病状が悪化し、抑うつ傾向が顕著となり、家族の精神的ストレスも増大するなかNote4Uが導入されました。導入後は、介護に当たっている妻、長女、また、米国在住の長男が、Note4Uを介して、在宅主治医、訪問看護師、中核病院の緩和ケアチーム、ケアマネジャーなどと病状を共有したり、想いを伝え合うことで、患者側からは「とても勇気づけられた」という言葉も聞かれました。また、米国に在住している長男は、当初帰らないと言っ

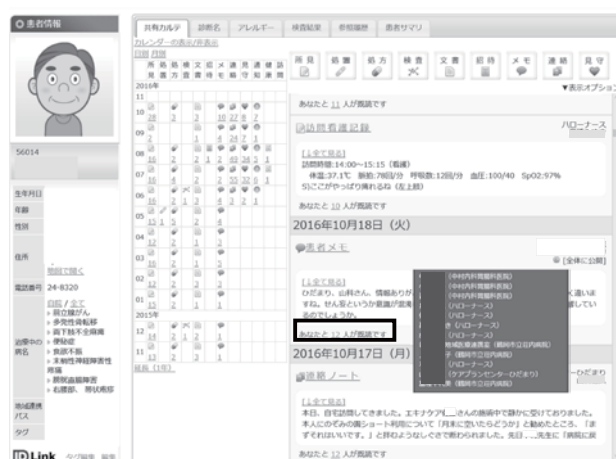


図 2

ていましたが、2回も帰国し、献身的に介護をしていました。結局、患者さんは病院で亡くなりましたが、Note4Uは家族にとって、また医療側にとっても、想いを共有するという意味で大きな役割を果たしたようです。

まとめ

- ・在宅医療においては、患者のみならず、家族支援が不可欠である。
- ・患者・家族支援ツールとして、「Net4U」とシステム連携をする「Note4U」を開発した。
- ・運用例はまだ少ないが、在宅医療における患者・家族支援ツールとしての有用事例が蓄積されている。
- ・一方で、どんな情報を伝えるべきか、患者・家族の心情に十分な配慮が必要である。
- ・いずれにしろ、Note4Uを活用するには、サービス提供側と患者・家族とのゴールを共有した信頼関係が前提となる。

さいごに

Note4Uの有用性については、まだまだ検証が必要と考えていますが、本来あるべき患者・家族主体の医療に貢献できるのではとの感触を得ています。今後とも、事例を蓄積し、報告していきたいと思っています。

日時：平成29年3月31日(金) 19:00

場所：グランド エル・サン

荘内地区健康管理センター協力医会

3月31日(金)、荘内地区健康管理センター協力医会をグランド エル・サンで開催いたしました。日頃からセンター事業における健診の診察、診断等でご協力いただいている会員の先生34名と、関係職員26名を合わせた60名が参加し、斎藤慎先生の進行のもと開会いたしました。会長の土田兼史先生からのごあいさつでは、各部会の後の懇親会をなくし、協力医会という形での懇親会にして2年目であること、本日の職員のおもてなしは超一流であるという大きなプレッシャーのような期待のお言葉をいただき、少し緊張した面持ちで事業報告に入りました。事業報告では部会・検診委員会で話し合われた内容、平成28年度センター事業実施報告と平成29年度の事業計画についての説明が行われました。その後、副センター長の鈴木伸男先生の乾杯では、本日はプレミアムフライデーであることと、プロ野球開幕の初日であることな

どをごあいさつにいただき、和やかな雰囲気での懇親会が始まりました。大勢の先生方が受診者一人一人の健診に関わっていただいていることを間近にし、職員健診を受ける受診者の一人として大変ありがたく、心強く思う一方、その健診のスタッフとして微力ではありますが、関わらせていただいていることを大変誇りに思うひとときでした。

閉会のごあいさつでは副会長の小野俊孝先生から会議の際のちょっとした楽しいアドバイスをお話しいただき、みなさん、笑顔で二次会場へ向かったことは言うまでもありません。

明日から29年度の健診が始まるという前日、先生方から笑顔をいただき、また、明日からの1年がんばろうという引き締まった気持ちで会場を後にしました。

事業推進課 大友 幸美



医師会 ニューフェイス

①氏名 ②所属 ③趣味・特技 ④ひとこと



- ① 門 脇 恵利香
② 総務課 一般職
③ 本・漫画を読むこと、減量、コンサートに行くこと。
④ 日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。



- ① 齋 藤 有 香
② 荘内地区健康管理センター
事業推進課 一般職
③ 音楽鑑賞
④ 向上心を持ち、地域医療の発展に貢献できるよう努めてまいります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



- ① 伊 藤 智
② 荘内地区健康管理センター
事業推進課 一般職
③ バドミントン
④ 初心を忘れず一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。



- ① 佐 藤 詩 穂
② 荘内地区健康管理センター
健診課 診療放射線技師
③ 温泉巡り
④ 岩手県花巻市から故郷の鶴岡へ戻ってきました。新人としてはだいぶオバサンで申し訳ないですが、謙虚に明るくがんばります。



- ① 渡 部 沙 紀
② 荘内地区健康管理センター
臨床検査課 臨床検査技師
③ 食べ歩きが趣味です。
④ 皆さん気軽にいろいろと声をかけて教えていただきたいです。よろしくお願いいたします。



- ① 土 田 智 由
② 荘内地区健康管理センター
臨床検査課 臨床検査技師
③ 美味しいものを食べるのが好きです。
④ 精一杯頑張ります！よろしくお願いいたします！



- ① 村 田 夕 海
② 湯田川温泉リハビリテーション病院
リハビリテーション課 理学療法士
③ 音楽鑑賞
④ 上山市の小児のセンターから異動してきました。理学療法士としては2年目ですが、まだまだ未熟ですので、多くのことを学べるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。



- ① 大 場 千 碩
② 湯田川温泉リハビリテーション病院
リハビリテーション課 理学療法士
③ 買い物、映画鑑賞
④ 毎日笑顔で、向上心を持って頑張ります。よろしくお願いいたします。



- ① 佐々木 ひとみ
② 湯田川温泉リハビリテーション病院
看護課 看護師
③ 旅行、音楽鑑賞
④ 看護師としては6年目になりますが、新人の気持ちで頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



- ① 佐 藤 叶 奈
② 湯田川温泉リハビリテーション病院
看護課 看護師
③ 音楽鑑賞
④ 初心に帰り、明るく楽しく仕事ができるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



- ① 佐 藤 瑞 希
② 湯田川温泉リハビリテーション病院
看護課 看護師
③ 音楽鑑賞
④ 笑顔をたやさず頑張っていきます。よろしくお願いいたします。



- ① よこ やま あや か
横 山 彩 香
- ② 湯田川温泉リハビリテーション病院
看護課 准看護師
- ③ ドライブ、食べること
- ④ 医師会の一員として活躍できる
よう頑張ります！よろしくお
願いします。



旅行記 出雲へ

茅原クリニック 尾形 直人

一昨年、20年ぶりの式年遷宮を終えて間もない時期に伊勢参りをした折り、60年ぶりの遷宮が同じ時期にあった出雲大社も話題で一度は見てみたい思いに駆られて、昨年の夏の終わりに3日間の短い夏休みを取り、出雲大社に出かけてみました。

松江城

初日早朝の飛行機でこちらを発ち、羽田で乗り継いで米子（ANAは島根への便がない）に到着。リムジンで先ず松江のホテルに直行し、当日は松江の市内観光に。市内を巡る周遊バスを利用して先ずは国宝に指定されたばかりの松江城を見学。1611年建造の5層6階の黒い天守閣に登り、望楼から市街地と宍道湖を望む。お城山から出て堀を渡り、堀川沿いに武家屋敷が並ぶ一角にラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の旧居と記念館もあり、紹介では当時、古事記の英訳本を読んだことがその後の人生を決めたと説明あり。日本神話や出雲大社などから神道への理解を通し、日本人の精神性に強く惹かれた人であったらしい。

その後はお堀を巡る川船に乗り、ガイドの案内で城の周りを一周、松江城の眺めを楽しんだ後、予約していた宍道湖畔の老舗割烹旅館で、松江藩主松平治郷（不昧公）の築いた茶の湯文化に浸りながら夕食を頂き、翌日を考えて早めに切り上げ、宿に戻った。

出雲へ

翌朝、出雲大社に直行できる一畑電車で一路出雲大社に向かう。電車は先ず宍道湖を南に見ながら湖沿いに進むが、天気良かったので湖



の向こうに東は大山、南は青みがかった山並みを、近くは点在する赤瓦の家々を見ながらのんびり走る。一時間余りで出雲大社駅に到着。ここは神門通りと言う大社の門前に伸びる賑やかな通りで、駅から数分で大社境内入り口の勢溜の大鳥居まで行けた。

ここからいよいよ大社の境内に入ると、大木の松林の中の風情で真中に参道がある。次の銅の鳥居まで行く途中にこの神社の主であるオオクニヌシノカミのムスビの像や白兎との慈愛の像がある。そして銅の鳥居を潜ると、正面やや左にあの大きな注連縄のある拝殿がある。一般の参拝では正月三が日以外、本殿のそばには行けない（さらに昇殿は滅多に許されない）とのことなのでここで参拝を済ませる。この拝み方は独特で、2礼4拍手1礼と決められている。拝殿の右奥に本殿の正門があるが、瑞垣に囲まれて内部はよく見えない。瑞垣の周囲を巡って本殿の上半分をすべての方向からよく見ることができた。60年振りの遷宮で造替された屋根、千木や勝男木、鬼板などは新しいものだろうが、古社に相応しく重厚な色合いで伊勢神宮とは全く印象が違っていた。周囲を神無



月（出雲の神在月）に国中から集まる八百万の神々が滞在する十九社、八岐大蛇退治で有名なスサノウノミコトを祀る素戔社、大社の宮司の千家家（出雲の国造）の始祖である天穂日命（アマテラスの弟）の社などが取り巻いている。本殿のご神体は正面（南側）を向かず、西を向いているため、西側側面から拝める所も設けられているのは珍しい。

一時間余りかけて参拝を終え、入り口の勢溜の大鳥居まで参道を引き返すと、お昼時で観光客がいっぱいになっていた。近くの出雲そばの老舗で割り子そばを食べてから、今回、ぜひ行きたかった大社の東隣にある古代出雲歴史博物館に向かう。

先ず、中央ロビーの真ん中に巨大な古木の柱の一部が3本集まった形で展示されている。これは2000年に本殿前から発掘された昔の本殿の柱の一部と考えられ、平安時代の造営時の図面に描かれたものにほぼ一致していると言う。この柱から計算された本殿の高さは48mとも推定され、展示室には1/10の模型が復元されていたが、平安時代にこんな巨大な建造物があったとは俄かには信じ難い。そもそも出雲大社は何時からあったのかも分かっていないが、7～8世紀頃には既にあったと考えられているらしい。そしていよいよ、この至宝である青銅器の間に入る。先ず、壁一面に展示された国宝の358本の銅剣、16本の銅矛が目飛び込んできてその迫力に圧倒される。そして39個の銅鐸も並んでいる。復元されたものはすべて眩いばかりの黄金色に輝いている。



これ等は、あの荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡から発掘されたもので、緑青を帯びたものが多いが、まだ当時の輝きを失わないものもあり、2000年前の弥生時代にこれだけの技術を持つ集団が住んでいたことに驚きを禁じ得なかった。銅鐸の表面には人や動物の模様が描かれていて、当時の人々の暮らし振りが窺われた。青銅器は既に実用性において鉄器に替わ

られ、何らかの祭祀の道具であったらしいが、300本以上の銅剣が祭祀だけのために使われたとも思えず謎だらけである。古墳時代の王の装身具や装飾された黄金の剣も展示されており、古代のロマンにもっと浸っていたかったが、宍道湖の夕日の時間に間に合うように神門通りに戻り、名物のぜんざい（出雲の神在餅が起源とか）を食べてから、また電車で松江に戻った。

松江に帰って宍道湖畔に着くと生憎、接近していた台風のせいで西の空は雲がかかり始めて夕日はおぼろげに見えるばかりだったが、八雲立つ出雲に相応しく、西の方角に黄泉の国の存在を意識した古人の思いを想像できそうな景色だった。

八重垣神社

翌朝、台風が来ないうちに島根を離れることになり、米子から早い便に変更、リムジンの出発までの短い時間だったが、J R松江駅から車で10分余りの処にあるスサノオを祀る八重垣神社を参拝。ここには稲田姫と夫婦で生活を始めた場所と言う故事があり、本殿の奥に結婚運を占う鏡の池があることで有名で、若い女性たちの聖地になっているらしい。「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」とスサノオは詠んだと言う。



周辺には日本最古の大社造りの「神魂神社」、古墳や出雲国府の遺跡がある「八雲立つ風土記の丘」、荒神谷や加茂岩倉遺跡など見所がまだまだあったが、残念ながら帰る時間になり、帰途に着いた。

慌ただしい旅でしたが、出雲とヤマト王権との関係、出雲と朝鮮との関係など日本古代史の謎は多く、しばらく古代妄想にハマリそうです。

慌ただしい旅でしたが、出雲とヤマト王権との関係、出雲と朝鮮との関係など日本古代史の謎は多く、しばらく古代妄想にハマリそうです。

表 彰

この度 齋藤 慎 先生が栄えある表彰を受けられました。
誠におめでとうございます。



齋藤 医院
齋藤 慎 先生

山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰

長年にわたり地域の学校保健業務にご尽力された功績が
認められ、山形県学校保健連合会より表彰されました。

(11月25日表彰)

表 紙

「 初冬の月山山頂 」

三浦 二三夫

11月中旬の晴れた日、当クリニックの屋上からの撮影です。この日は360度快晴の日でした。北から烏海山、東に虚空蔵山、月山、湯殿山、遠くに朝日連峰、近くには金峯山、母狩山、熊野長峰、そして西側には荒倉山、高館山など庄内の山々が一望です。月山の頂きには神社や宿泊施設も確認できました。

編 集 後 記

寒さもようやくひと段落し暖かな春の気配が整い、過ごしやすい季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

山形県ではバリから帰国し来県された男性から発症した麻疹が、猛威を振るっています。平成29年4月11日現在、山形県健康福祉企画課より、第22報で58例目が報告され、いまだ収束する気配がありません。連日報告が続き、あらためて空気（飛沫核）感染のおそろしさを痛感しております。

さて今回のめでいかすとりでは、三原先生に平成28年度日本医師会医療情報システム協議会についてご報告をいただき、患者・家族参加型システムNote4Uについて解説いただいております。Note4Uの活用事例も紹介されており、在宅医療での患者さん、またとりわけそのご家族（同居・別居）の状況把握・つながりの重要性を教えてくださいました。また将来的に操作の簡単なスマートフォンやタブレットの利用や、写真・音声入力への導入は高齢者の方にも使いやすくより参加しやすくなるものと思われました。

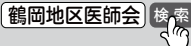
旅行記は茅原クリニック・尾形直人先生より美しい松江城とともに出雲大社をご紹介いただきました。古代出雲歴史博物館の銅剣、銅矛・銅鐸等はさぞ素晴らしかったでしょう、ぜひ一度自分も拝見したいものだという感想とともに、名物の出雲の神在餅入りのぜんざいとはどんな味だったのでしょうか。

編集後記2回目担当させていただきました。未だ稚拙な文章で申し訳ありませんが、今後ともよろしくお願いいたします。

(木根淵 智子)

編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発 行 所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1－34

TEL 0235－22－0136 FAX 0235－25－0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>

印 刷 所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27－1 TEL 22－0936 (代)